



色
集
集



三

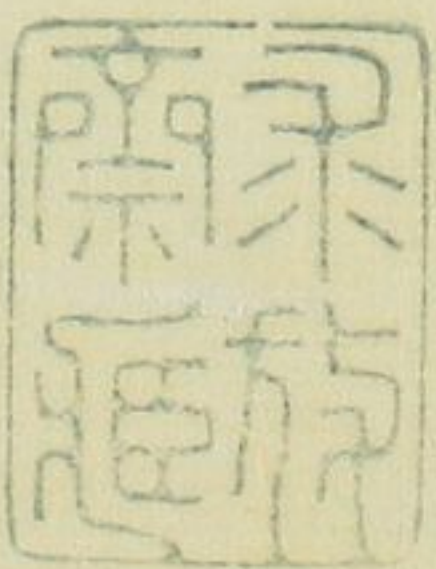
中村俊定文庫
文庫 18
713
3





翠八重に河津の能と云ふ川も小
 ようらうらゐすの鳴き〜ねき
 つまの孫うゑの歌ひねとて
 今朝むふうちるふ裁の掬
 枯風に花をた〜りのくふふ
 昔もるねハちさあうちる

涼巻
 千川
 今世
 宗波
 此翁
 溜子



机をくく瘡のこゝとらばあ
手平の墨を分けてくや先り
瘡のき厄ハ招くこゝとらば
奈良ハせくの中はくうなれ
を湯守小袖の襷をりこゝと
筆のこゝららと 墨のふとら
石のこゝらら深氏一紙のこゝと
控てくき世を 安き 僧正
出来合も伊勢の料理兼ねと
採定てあくく内庭の砂

川 子 箱 筋 川 紫 波 海 筋

朝日に空の雲をせりこゝと
白うけのふらの糸つらと
石のこゝらら鳥居の奥のこゝと
地元の株のこゝと 名苗字
夏とハ屋うねーの言とこゝと
寺の北ハハ 正及の杖
夕月小橋本泊お民堀の破
石のこゝららをけけけけ
内をそれハ正儀のこゝと
居てあくくららけ子のこゝと

川 紫 箱 筋 柳 川 紫 箱 筋

うらむきそ糸よんぬのれりそ
 あつれ糸もさき 雫の歌自
 之糸の撻りゝ西ハ一これり
 桑やの二階ハさげの橋
 葉一ふりゆて大よりさゆりけそ
 うらむの文とつらるるの
 花さげハ文もさき 塚の上
 高きぬこさむよのこしたんぼ
 流ひもり夕日と一とさきつて
 たうまほとんをゆそさく

川 柳 葉 花 川 葉 柳 糸

梅さふより子れ篇のさうけ
 笠わさきまのあけほの
 即ちさきく小田にち指比すれや
 志とふいそさて下されり
 かさすまに 雲とあつてそれの
 二階の糸ハ たうまほ

乙女
 除却
 志勇
 糸
 秋

好きうらうらの花いへくもせす
 梅の葉のひのちうきき風
 露心れうらた城の筑麻山
 内蔵たうとよきうたれ
 卯の別の葉まにまよ少あか
 すききうら川の静なりき
 蘇のれ唐のれふよきうて
 若うとよき。百舌鳥の一葉
 懐ふまをあうむきその月
 汐はうらうらね外のあつ

男 石 存 海 次 男 外 舞 月 外 凡 外

港の柄よますうらたをれのれ
 厭うきうらうにけうかの松
 葉の日に仁家て編る 舞机
 店やりのうらま供のまうり
 汗拭ひ踏のきうのらんのを
 わくれと清きき 鶴のト
 火渡ふ巾のひねさぬ意を
 身ハわれ残のうらにきき
 小刀のこまうりきき。細工終
 柳よ うらうのうら大の敷

去来 凡 正秀 来 半路 出芳 跡 芳 跡 足 足 足

夏よりいへば夏も涼すの
猶うらわをせ 香たるとを
け夏もるあをうら 破し扇
紫油 涼さをそきく月々も
噴きうのさうりいらさ振つて
うへはうううと小二面なる
新さきと涼を思ひうらまは
うら言うらう 井のうらう下
ふふまうらうら 連も言うら
新のたうらを 涼さうらう

猿帳 山 風 鉦 芳 風 岸 史 邦 野 水 羽 紅

木のこもたけ汁も経てもうら
池口のうらた 涼さうら
旅人のうらうらうらうら
とさうらうら た刀の 鞆
月影うら 後の月影の 月影
叔うらうら 杣のうらうら

七世 孫 水 出 水 葉 頌 水

鶴 鶴 鶴 鶴 鶴 鶴 鶴 鶴 鶴 鶴
名ハ 名ハ 名ハ 名ハ 名ハ 名ハ 名ハ 名ハ 名ハ 名ハ
入 入 入 入 入 入 入 入 入 入
中 中 中 中 中 中 中 中 中 中
い い い い い い い い い い
細 細 細 細 細 細 細 細 細 細
物 物 物 物 物 物 物 物 物 物
月 月 月 月 月 月 月 月 月 月
雄 雄 雄 雄 雄 雄 雄 雄 雄 雄
戸 戸 戸 戸 戸 戸 戸 戸 戸 戸

意 水 頑 意 水 頑 意 水 頑 意

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
形 形 形 形 形 形 形 形 形 形
何 何 何 何 何 何 何 何 何 何
又 又 又 又 又 又 又 又 又 又
蘇 蘇 蘇 蘇 蘇 蘇 蘇 蘇 蘇 蘇
然 然 然 然 然 然 然 然 然 然
身 身 身 身 身 身 身 身 身 身
さ さ さ さ さ さ さ さ さ さ
双 双 双 双 双 双 双 双 双 双
後 後 後 後 後 後 後 後 後 後

頑 意 水 頑 意 水 頑 意 水 頑

中しくよとすに居れハ巻もか
象名を正のなつりりのあり
増もれくいつぬ喃の形を英
自書くくくく明きさる一月
それ花あをを批けハ末うれて
吹 穿かきさる 巻巻の 巻
一巻の巻も借と 巻くくく
巻巻の巻くくハ 巻巻ハ列
巻巻けくくくくくくくくく
巻くくくくく 巻のくくく

水 頌 巻 水 頌 巻 水 頌 巻 水

南窓一尺春とつと歌

久くくやとまれくと袖ひらり
巻巻る友と けうひくく巻
かくハ借けくくくの巻 揮きく
くくくくくくく 一瓢の酒
月をれてくくくくくくくく
巻のくくくく かく秋の巻

去来 七世成 巻南 嵐巻 巻 末

牛車に上給ふ所の世にありき
皮位あてて 夏女をくせり
燈灯よ 久らふそくのきり
かろふくくは ちの枝木
世よりハ 冥よるわさるの脊戸
つじよわさる 後家おさく
仇人の名ふくくを氏を控
何ふつひさる 業書の巻
さきおさる 八巻山吹よ大の巻
軍のかたん うとさき 巻退

角 巻 来 巻 南 巻 南 巻 来 角 巻

と何とにんよ 海ぬ月もさ
活生くけり えき の世合
るもやうけりよ 消るきりきり
小牧 法り 葬孔の中
丁移んもきり 奇人さつをさる
変りのともも 次戸の一度は
新れよす 看るりの中よさる
栲 やき 木のいよけ
冥かろく 業すくたかろえ
色鑑とく 書画の巻り

巻 来 角 巻 来 巻 南 巻 来 角 巻

くらわく。鹿の下よ 十百本
 日ハ 何時も 破さあのみ
 ちましくすいそ 徳身め 修きこ
 芝たぐよーき 菊の菊急
 いつともあねの 護平の行も急
 口の急急うは ころゝ 急めま
 くるつる心 急きり急の 急あれ
 わまはよまきけぬ 急の急きり
 急切く 急本に 急る急りあよ
 急よ 急急の 急けそ急けそ

角 急 急 急 急 急 急 急 急

種芽や急の 急り急急急
 巨植 急きけハ 急う急う
 急好の 急も 急急 急これ
 急之 急急 急急の 急急
 急急の 急急 急急 急急
 ひさこの 急を急急急

急 急 急 急 急 急 急 急

秋凡と核の戸をらる縁入く
小僧のくせに口をくすす
おくと矢洲の河原の舟は
多賀の抄子もいつのとき
自らくつての男もくつて之掃紐
人まらりくつてくつて名はを
葦のさの多もくつてをきく
杖くつてせこの唱死もくつ
月をくつて名を根とく凡のき
くつてくつてくつてくつてのあ

品 芳 孫 蕙 品 芳 孫 蕙 品 芳

葦のふのふ際くくつて
細登たりくつてあのかつりや
猫の目の六柿核くくつ丸く
おまのりよひの織物を切
かつて白も病人われはくつたや
虫はくつてやんておつてくつ
くつてくつて細登のくつてくつ
おまの縁くつておまのくつ
きくつてくつてくつてくつ
まくつてくつてのわくつてくつ

品 芳 孫 蕙 品 芳 孫 蕙 品 芳

飲夕よ 嬉ひの多ふ後とり
いとわづれさる 望む夜の光
田原の橋を平下りて月すまて
風もくうしる 牛のよの聲
家一れ残のさき蹴袖と折
死もハ人の 何よ あらふ
神風や吹起されてかきあぬ
草と花をハ 進まぬ
自從とひくんの冬とあり
長宗よ 登のた鼓打り

品 芳 跡 蕪 芳 品 蕪 跡 品 芳

五人技おとろそきと柳水
日和 くよ言橋の巻
様ひきの月とらへん心こそ
うらうらとけり 雑子の聲
暖くうそわらぬ 水の意
傳利 白くそ 砂を 笑ふ

中 坡
とを 蕪
、 坡
、 蕪

丸をよせ旅うら旅一旅とく
境のよりののこり一城をぬ
ま白よ杉も柏も雪の糞
うさ世の中をたてて産支
産産と衆を一回撫仕華
藪入きよとさあしりては
鶏はも頼みあうする秋まで
おらうらうら 丁の月ひ
はくはく一の酒とらるる
らんはく 釣のこり一火

坡、谷、坡、谷、坡、谷

嘆ふよ十寿の羨旅わき無
らや菜島もつとさかっま
はくくくと澄よねあはまの風
陸のきく一に夕日ちくく
沢美社をよと子供福あゆ
中さみうた灰吹もい
一握り縛うわあしとけけ状
たよも粉言のちううと降
かえらると黄ひよ中戸片一握
むうの菜翹とと昔にやむ

坡、谷、坡、谷、坡、谷

市原よりこころとなくけり子
并地むよけよるこそん
月うけに小筆伸るの流片れ
そくうりきとほりる紙き
とくくと桐のえふるまは新
おきてある空の舞衣日
やうくととうお起片れく髪片り
猫うきうる人しき
あの空のらねえまっらうら
掃一目のくよらくの蝶

瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶
瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶

あれまた礎とらうやあの際
瓶ふまけり 壺きりの 吹
中庭空の火絶ゆるはゆき
山のあけこの境すやなり
窓下に月毛の弱るまゆり
風起やうたふれくのを

瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶
瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶

傍輩に角力の折角りりしれ
帯ほろろろろのたろろろ
福と角の初瀬こりりれ南を大世
豆荷ーまよ 音よの東風
酒さるん杖ふろろろろろろ
脚やと笑よ 老のぬろろ
負いろ角 功者ふりてゆろろ
ろろろろろろろろろろろろ
見つろろろろ角や遠入る月の夜
角の難ろろろろろろろろ

角 音 角 音 角 音 角 音 角

一と角を彼者のそれの戻ちろろ
日水ーとれ 涙家や太秦
わろろろろ孫子新せじ 弱法師
お醫者まーろろろ 体角まろろ
船と浪よろろろろろろろろ
枕燈 名やろ 所ーの入口
女房ろろろまやのろろろろろろ
高田の喧嘩ろろろろろろろ
友ろろろろの孫六援ろろろ
たろろろろ 風の石巻ろろろ

角 音 角 音 角 音 角 音 角

牛のふれり〜にせ〜市の中
江崎 枝高乃 田中 隆尺
とつとつと書よ入月の色ねえとま
いつ〜とま〜と時りり〜舞
粉ほらんにに手打書あ〜りりて
せんまとのひる ま〜と〜見才
一巻ハ江戸と名さる小巻の
今〜〜〜吸て神一のつお
兼よと未まを拵〜とれあひ
二人〜〜ふ きのら〜

角 香 菰 香 菰 香 菰 香 菰 香 菰

風流乃る〜と鳴やほ〜と
旅の香麩〜〜の〜れの中さ
砂川おひ〜ん 又谷の紙さて
門ら〜する 醫者れ兼おき
月の如ハ〜〜〜ぬかも勢也
〜らふ 西風も〜ハ〜

涼茶 香山 口良 湯子 宛案

庫裏姑の身もあつたものから
 やるゝとわらふとのうらむ 六尺
 之ッ目より人もあつた心持を
 らもあつた 飯名もあつた
 此燈を踏んで息をかり合
 本質をきかすハ 糸糸をよひ
 入新も細さきすおれおのり
 一原と若くす ぬきき人
 とほろりさよとさうい 句を換ぬ
 小福の文とさき 村く

試水 曲水 荒雪 兼 照流 山 曲 子

びんねおお友をやとさし
 ちの 樹木を ぬきき ちの
 入りのも田螺の ぬきき ちの
 つらさをきけ ぬきき 君
 ちのぬ 盤人 参のちりに
 又とさき ぬきき ぬきき
 火桶下 ぬきき ぬきき ぬきき
 うんぬのこ ぬきき ぬきき
 ぬきき ぬきき ぬきき ぬきき
 おとけ ぬきき ぬきき

兼 山 子 兼 兼 兼

落馬に風を乞ふ行勢の師
先日初よふ娘の夕とれ
柝底の 笛を吹く好の月
橋よりつれて 小舟あり込
物の尾房はけりる娘の事
破氷の岩より 流る 是迄
ひき流すらよ中りと帯をたぐ
ききん 妻に 酒をいれたり
おとやふく 宿をさぐる 雲のれ
菓を喰ふ 鳥の人と 怖る

良 子 然 系 葉 宮 山 孫 良 世

布中への白紙や 友の月
あつしつくと つくの舞
二重の店よりもささげ 控まて
灰より 下りくさくさ 一枚
けりる 銀も 石より 中居
只とて ちりちりに せき 控り

凡 此 七 葉 七 来 肥 孫 来

暮じしに蛙こもる夕万々れ
 露の青とりけり打中り出す
 石心乃おこる八雲のつぼむとさ
 路中の七尾のあそびゆるしよ
 魚の仔のあそびゆるしよとさ
 舟人入し小舟のつぼむとさ
 立ちし屏風をぬけ女よとさ
 湯煎ハ竹の葉をよひしとさ
 荷音の實を吹落し夕あし
 僧やきく寺に歸るを

此 来 路 紀 来 路 此 来 路 此

猶梨の片と雪とる秋の月
 ちよつ年一の地をさうさり
 云ふ本中本つけさる漢を
 たんちよよとる 是屋ののち
 進んでとやさほるのつぼむとさ
 てつちのあそび ちよとるしとさ
 戸邊も是うさの美やとさ
 了井ちり いつのいろはとさ
 ころくとさうらとゆるしとさ
 登るしとさいよとるしとさ

此 来 路 紀 来 路 此 来 路 此

まきまきくにけりてはるる外に
ゆくとてきよの わたぬ せ 桂
葉 庭 子 志 けりてはるる外に
いのちのけりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に

来 存 外 来 存 外 来 存 外 来

堀の息口光沖代系勅を
扈從す 岡田氏何を来たりに

後の家とてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に
けりてはるる外に

とせ 千川 漆葉 左柳 川 瓶

吹 御 杉 も 起 き す げ や ー ろ
 毎 も 葉 の も れ よ る 葉 の 家
 火 の も の 歩 れ ぬ 程 よ く 犯 ち
 梅 子 の 葉 を 借 り け ー ち け
 庭 の ひ ろ お よ り の 庭 月 代
 せ ち づ 緒 ハ 結 ぶ つ づ け
 笑 子 山 来 せ ハ 下 川 へ 出
 形 礼 乃 崎 づ く 流 の ち づ づ
 足 づ づ 見 づ づ 流 づ づ 流 づ づ
 山 柳 葉 山 流 川 青 山 柳

ち れ づ づ と 赤 る 火 花 の 鳴 り
 程 づ づ 梅 子 花 づ づ お 登
 あ づ づ 流 路 音 の 音 と 無 づ づ
 ち り づ づ づ づ 原 本 の 拾
 湯 づ づ づ づ づ づ づ づ づ
 急 の 枝 づ づ づ づ づ づ づ
 流 づ づ づ づ づ づ づ づ づ
 身 の ま づ づ づ づ 何 何 の づ づ
 流 づ づ づ づ づ づ づ づ づ
 師 や の つ づ づ づ づ づ づ づ
 山 柳 葉 山 流 川 青 山 柳

人々の勢目川あふ 荒色
玉をとりれて 釜を忍びたり
をきじくと 口はさひり 死に
海山に 西よささく 蟻の音
陸舟の うち矢並を踏ひく
火小く せふく 門乃るもの
院内ふき 流川 系 流の音
を形く 幸しく 体じ 系とち
け 是ハ 毎より 定ま 系 のけ
世の 背の ぬゆ 苗 一 ち

大舟 釜 系 柳 舟 系 川 系

秋きて 干ぬく 系 音 くれ
交辰あきて 戸を ちつ 月
お 橋を とす け 音ハ 申は 子
人く 一 ち け け の 故 下 山
経 ぬれ ち け け 田 命 塚
も ち け け け け の 風

及 府 珠 取 之 道 昌 彦 正 秀 操 志

番控て舟のうけしを指しむ
をすし改のこもしたるのす
居無子難飲時の夕了れ
神ありけし娘うら由身
けそおし合解の事たりし
乳を〜と特賣と〜
月のお酒よき法〜ふさうつ
業と前うらとちの殿人
上流よ難やむ 白のけ
日和〜 鳥の朝明

道 秀 房 志 秀 道 秀 房 道 取

と〜と極板の〜花さう
あひつれ〜去の〜く出
帳ひろふ砂川 滂るそ糸あよ
眼切りそら〜 隣りうら
行し〜で朝起 習〜 五日
〜と 休む 食物の味
母親の仕立〜を嫁入費
恋ふ所〜ある 橙那 山
江戸店と持てをほの門〜
麦と粟鳥〜 佃の〜

取 道 志 房 秀 道 房 取 道

辰川の舟をきくことにてせられて
 舟の小舟よ美作一せむる
 志んくと國の伊豫管も舟小
 心をきく 秋のひよき
 山細の本跡多つく風の音
 石地の坂をぬる 弓や坊
 情つよきあ井の大工浦にて
 つよきをのこは 奈良の路と
 地のひろさとくく 花と極意を
 つよきとする 甚のあまほの

志 府 秀 府 道 取 取 秀 府

白髪ぬく枕の下やきりくは
 入白をすくは ぬるとの舟
 わるし舟のいろくくく 杖のさそ
 うわうろくはくくく 柴
 何れも舟の筏のくくくと
 麦の小くくを叩くあまを
 波さくく 一切れぬるさまらち
 かとくひ 細る 意舞一のほ

志 府 取 取 取 取 取 取 取

一一一ゆりれ帯更り後とあて
 久一きさうひのあふおや一と
 山とりの坪のぬさす神わ一一
 加右右よりととり鶴々り
 月うけの雲の草色と述うけそ
 朝もけりしも 略すりけり
 一のさきとありの手さきと風さ
 人も 活生のの糸袋たつとも
 時くよふも坊さうあわく留
 登茶より一一とどろく一一

破 后 破 后 破 后 破 后 破

秋の衣をうらあ一一と世に
 月さ川原とひうとひさくあく
 西の山とそれとそれ厚さき
 ぶくく牛一のよく一一くなり
 買の名まんるとあま 美性者
 小袖を出一てあつた大さ
 史きさうひをさうとあますれ
 給ても 醫者の又あられまたり

七巻成 車庸 活先 游刀 観休 惟然 支考 破

扱ひたる地く扱ふくくと
 奇て扱ふ 弁当の 扱
 此より是迄つけて言ふと
 すきりなくハ賢いれまふ
 廉乃其ぬねハ高策、白の扱
 る事の月のの 細き川、筋
 せよりして其処とあるは、噪
 七種とハよりハ 障 ちき
 見をるの若鞠の若ぬさやん
 小巻くさきさ 金杉のそふ

庸 考 然 庸 刀 考 然 庸 考 然

御明の所く扱ふや響ひ
 自片くくさ 庭のこふ 七
 扱のそむハ業を所はさうそ
 自扱ひの ちらうくはふ
 廣巻のそ殿とくふ 扱ふとく
 又らうくしたる 急の扱やう

探志 正秀 胃房 盤子 及府

竊屋の明鏡とありてや
 雲を下りて 赤い子の影
 山傳ひ 竹葉の上の
 相方の集と わらわら
 お来合のもの 振る心
 小鳥とよむ 蒼き文垣の
 名は借るまひ
 新酒の息のほら
 強まらずなれば 君と
 自の

江志 秀 孫 子 房 秀 江 孫 志

嘆られのこれよ 吾れ
 けりかきしき 育乃
 ゆる居中の 一
 日とよにきき 是よ
 見るそり 細工
 湖をと言く 約
 隠れは 也
 麻のねの 漬く
 むきと 友と
 名 孫と

肩 房 秀 子 江 孫 房 秀 志 介 松

午らのくや勅のま成とと仁翁
 こころもたふねころき、徳立
 お忍ぶととと母若一のきれいさ
 たととととに、流るわととと
 一振の美よりぬハ、結ぶとのま
 津並と、やめと、流るるに
 凡節に行を、所と、次るなり
 るに、まてと、徳とととける
 流るる、白雲つける、それのま
 あり、くくして、めと、つとととら

子 秀 房 秀 子 房 江 房 子 秀 房 子

初年やま、日般神如杖の翁
 ころき、くまよ、こころ、谷川
 中分より居む、れ結比之、て
 何、心、月、小、あ、あ、め、れ、や、こ
 一、居、身、を、解、く、の、程、の、ま、る、く、
 接、く、こ、は、く、る、年、の、川、を、

仁 成 成 史 中 嵐 海
 成 成 成 成 成 成 成

手よりハ七持ゆる人夕やうれ
 紙箔れおちゆはほよるの脊
 并高の業と只主 石のく
 やりふ色よさるふてこ
 四つ折れうとむし君の丸くぬて
 物さうらに つき 是を
 月ふれてぬれ海やむ早ぬら
 可橋のたをくたがめしうり
 物にに又起さうく村の風
 番ふ赤子をゆき小坊を

邦 水 葉 邦 水 花 葉 邦 水

ちれちのぬとえくく七のく
 細き井藻をやさあわ由
 去風よた鼓やゆ 藤芝居
 言 くら あら伊丹流白
 流珠よ中寄るの表 人
 是れはは隠ハあまんもの役
 足知れて已知るし本君のる士
 うちりするくりにや鳴子川
 袖ぬれはほよるぬきさく
 月も月ひくき 碧池の柏

水 葉 邦 水 葉 邦 水

定まきしに素のトと 吹立く
 石所あるれハ 無縁さのう
 良細ニ又 難恙たき 縁層
 唯 ぐつと きとも まけぬ 小う 何と
 帆 定まきしと ありれ 船 乗る 合て
 秋 入 河の 筋 糸 じつと 糸
 流 淡く 澄つて きき 青の 月
 無 徒り 如く ちの い ぬ り
 お 前 の わり 判 刀も 結と きり
 古 楚 泉 の くら さ 馬 場

邦 水 海 邦 水 海 邦 水 海 邦

花と 移む 一きと 糸と 表と
 小 姓 の くら ね 妻と 糸と
 糸 橋の くら どり の 糸と 荒 穴
 する の 糞と くら 役も いうと
 夕 暮に 洗 浚 賃と 糸と 糸と
 とつ ぬも 糸と 母の 吊 糸
 梳 くり けと 糸と お 糸と 糸と 糸と
 け わり と 糸と 糸と 糸と 糸と
 糸 括 糸の 文と 糸と 糸と 糸と
 百 里と 糸と 糸の 糸と 糸と

海 邦 水 海 邦 水 海 邦 水 海 邦

幽卷三

二十九

川岸に云依村をたづねて
 宗もふれぬ中へ 生登
 いふた能終へ 重るよ 月のれ
 貫くまよらく 晴のの川へ
 摺とらたふとく色をたづね
 障子りふらる 霜のの川へ
 小舟 音階 さらの川へ
 二相 三白れ 曇るる 曉
 考へてより 糸のたれさうり
 百姓 体じ 苗代の遠
 水 水 邦 水 邦 水 邦 水

十三夜わりの月 雲のほろりか
 小神の柳のこぼさくは 湯子
 焼飯よ 風の指つけは 湯子
 荏苒麻のうらた 史邦
 子身身笠の手よりれ 杉風
 こもつさ 海舟 風名のみまら 水

ようれさるる衣上端袈裟打立ぬれ
伯母のかつらめ人のけけ
今月の実梅の繁れ梅折け
枝りく来たれ梅をらひらき
露霜ととこそまきしるるのう
くさくさ 細めた ぬるさるや
袖舞ハ之いのかよ あがりて
借一屏風を みる夕ぐれ
花よりこれに飾りくらす梅
早きうくの ちのちのち

邦 彦 風 水 衣 子 葉 良 子 孫

草菴懐故人

名月や藤吹雪のそれきり
あふるくくれ けしね虫の音
故と名よをひるるの色さひて
まじりきりまれのさけの 感じ
端乃ねくれをそよよ 懐り
舟れハ 坂の下にきり 渡
猫人の矢先のけきとまきりて
さよふえより音のらくやく

溜子 之世成 千川 涼葉 比菰 子 海 川

入らば 澄流と 粧ひ さら
 きと 洞窟の 鏡板 ともく
 舟こもり せまう 八つりて 夕凧
 うろうろ 遊ぶ あり あり
 依見 せり あり ありの せむけ
 食の ころき ともく ともく 杖
 月うけ 八差う ともく ともく
 殿の ともく の ともく ともく ともく
 とれ せけ 八本の 車川 ともく
 ほろり ともく ともく ともく ともく

菰 子 川 子 菰 子 菰 子 菰

いちよひ ひとと ともく ともく ともく
 精舟 ともく ともく ともく ともく
 せむけ ともく ともく ともく ともく
 肩の せむけ ともく ともく ともく
 見之 ともく ともく ともく ともく
 ち ともく ともく ともく ともく

とく ともく
 湯子
 徳水
 徳く
 子
 菰

空つきのあふ 女房此良きと
 花すくぬす 山外のうも
 多きまに 神て子鞋 ちり
 備一の少総とく ちの角をす
 鶴の葉に 赤ふ みのさかして
 化りのうら 備とさ 孫や城
 柳の枝おろし ころる きの月
 淡始交る ぼのやふ入
 物後古ふ 旅を ーきりり
 根 果てや 塔とこれ ー

水 依 子 依 水 子 馬 子 水

都より 十りも 集ふ ちれさうり
 爪と 赤る ーとの ゆてりの
 手れと 法師の下人 ー細して
 之候 ーくれば 瓦もかろく
 おつけねか ち刀を ちよう ー
 ちれハ ー ー ーの ちと ー
 友川 ちよ 骨の ぬを 語り ー
 ち総の 社 自を 見り ー
 糸 煮ハ 子 末の 芽を つく ー
 厂も 大子に ちり ー

水 黄 花 子 良 子 染 子 子 糸

眉作 途 似 少 あり 今
大原の 旗 や 軍 へ へ へ
較 多 く 獲 け け 半 半 半 半 半
冬 の 前 へ へ 鐘 を つ け け
紗 へ へ へ へ の 松 を 傳 へ 来 へ
老 け け け け け け け け け け
物 色 と け け け け け け け け
た け の せ け け け け け け け
雪 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ
そ 風 吹 け け け け け け け け

子 子 子 子 子 子 子 子

新 株 や 水 田 の け け の 種 の 意
え け け け け け け け け け
夜 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ
こ え け け け け け け け け け
古 戦 場 月 も 静 け け け け け け
さ け け け け け け け け け け

酒 壺
嵐 井
を 世 哉
水 鏡
嵐 壺
壺

所く沙の門の控にくらゐりて
 空と 明けハ 望し入 虹
 空を来し肩休する くらゐりて
 有仙 止る 房の侍
 隣らきの谷口 此の言の
 場に在る 師の権漢
 小僧の肉体 此の御あり
 新も 鳴ると 月まら の意
 懐ふと 存する 此の御あり
 死ていゝくく 之の御あり

竹 谷 鑑 葉 昌房 正秀 仙為 探志 濠刀 堅泥

花のけ 村まの 瑞 瑞々 舞
 ようひまの のわら くる
 峻と 移し 孤の 年 さまと
 池の小 流に 弄の おいと
 焼く 蛤 菜やの 鈴の 月
 風と 突の け 然の 破れ 戸
 老僧の ち け 此の 柱の け
 た 被 ずる 源 更の 言
 六月の 孫の 二 孫に まゝりて
 た ぐこの び子の 心 危 けり

去来 中 史邦 景枕 孝宗

わやありれ縁よりききしあやの系
 一しれふるをりれきとの
 枝作る 松と塔をとりけりて
 二朝きくひて 歌のあしり
 ずくよきかきの都中ゆき
 女史くくしゆく 本居れ祥
 遠りれぬゆハ云幸ふさふの云
 昔年の昔れゆゆあふ
 甲くくれすも起をハさふの言
 庭心 夕への庭る 犬

之道
 車廂
 志
 秀
 高
 彦

われりれ人しきくしきこの系
 為くくれく 下ふゆく歌
 月又とて猶もわはあけ
 平ぬくくしくとけりるるり
 松の風 登程の爰れくさあぬ
 くらくあしりて するの一むれ

志松
 小枝
 高子
 彦子

日と寝て了る湯巾の巻もあたる
 下戸に 抱きくく 身をさ 海摺
 袂の ちよこさ けり のらきれより
 その 地籠り 枕つゝ ちや
 入れた 為の 葵も 鳴きしを
 おとす ちよこさ 空よこし の女
 紙の 花 女の ちよこさ と ちよこさ
 又 登り して ちよこさ つゝ ちよこさ
 ちよこさ 本より ちよこさ せいの ちよこさ
 雷わつゝ 塔の ちよこさ ちよこさ

芥下
 巻せ
 季色
 秘三
 夕市
 巻
 松
 蟻
 校
 良

世に 行く 舟の 粒の 二と 本
 船 家 舟の ちよこさ の ああ ちよこさ
 ちよこさ ちよこさ ちよこさ の ちよこさ
 ちよこさ ちよこさ ちよこさ 月 の ちよこさ
 ちよこさ ちよこさ ちよこさ ちよこさ ちよこさ
 ちよこさ ちよこさ ちよこさ ちよこさ ちよこさ

子 邑 市 ト せ 之

